

かけはし

〒669-2321

兵庫県篠山市黒岡5番地

TEL 079-552-1181 (代表)

FAX 079-552-5343 (代表)

〈理念〉

兵庫医科大学ささやま医療センターは、安全で質の高い医療を通じて、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

〈基本方針〉

- 患者の立場に立ったチーム医療の実践
- 人間性豊かで、優れた医療人の育成
- 科学的な根拠に基づく医療の実践
- 健康増進活動による地域の保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

〈患者さんの権利〉

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- ご自身の診療情報を入手することができます。
- いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。
- 患者さんの権利に関する「リスボン宣言」を尊重し、患者さん本位の医療を実現することができます。

◆老人保健施設長、介護支援事業所所長として◆



平成26年11月に兵庫医科大学ささやま医療センター病院長に着任しましたが、この4月より、私、太城力良が前任の福田能啓先生の後を継いで兵庫医科大学ささやま老人保健施設の施設長、ささやま居宅介護支援事業所の所長も併任することになりました。

兵庫医科大学ささやま老人保健施設は平成11年9月に開設以来、高齢化の進む丹波地域の中で、ささやま医療センターの併設型老健として、高齢者の自立を支援し在宅復帰を目指すとともに、在宅の要支援の高齢者とそのご家族に対してはケアサービスを提供して参りました。居宅介護支援事業所は平成23年2月に開設し、在宅の高齢要介護者の支援と共に障がいのある方や児童への相談機関としての充実に努めてまいりました。そ

して、兵庫医科大学ささやま医療センターや付属する地域支援型リハビリテーションセンターと連携して総合的ケアを提供し、心身ともに豊かな人生を支援できるように努めて参りました。今後、より一層の利用者の皆様、ご家族の方々から信頼され満足いただけるサービスを提供するとともに、篠山市の関係部局や一意の医療・介護施設とも密接に連携した地域のニーズに応じたより良き運営を心がけて参ります。ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

兵庫医科大学ささやま医療センター
病院長 太城 力良

◆看護部長就任のご挨拶◆



平成27年4月1日に看護部長に就任いたしました。

ささやま医療センターは、丹波・篠山地域に必要なプライマリケアと高度医療を行うことで地域に貢献し、地域に信頼される病院づくりに努めています。太城病院長の方針に従い、地域包括システムに則った早期社会復帰と在宅療養支援に並行し、断らない救急医療体制の強化に向けて、看護部の役割が果たせるよう努める所存です。

また、看護部のキャッチフレーズ「看護ささやまホッとステーション」を大切に、患者さん、利用者さん、ご家族はもちろん、職員にとってもほっとする看護部の風土を守ってまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

兵庫医科大学ささやま医療センター
看護部長 平川 弘美





◆平成27年3月31日付定年退職医師のごあいさつ◆



麻酔科の和泉良平と申します。平成12年7月当時の篠山病院に入職し、それ以来手術の麻酔管理・ペインクリニック外来における痛みの治療に携わってまいりましたが、この度平成27年3月31日をもって定年退職いたしました。

医師になって40年、最後の15年を（もうしばらく続けるつもりですが）篠山で過ごすことができ、心より感謝しております。ありがとうございました。

◆医療のお話 シリーズ1《検体検査の標準化》◆

去る3月18日（水）、「検体検査の標準化」～当たり前じゃないんです・・・よその病院でも使える検査の値～というタイトルの市民ふれあい健康教室を開催しました。

日本社会には、乾電池にJIS（日本工業規格）マークがあるものとなないものがあることや、身長表現にはmとcmが混在していることをまず紹介しました。こうした無秩序を単純化し秩序化して統一することを「標準化」といいます。

一方、近所のスーパーで購入した牛肉の生産地から屠畜までの流通を調べることができる追跡可能性（トレーサビリティ）についても例示しました。

当院の臨床検査室で測定し報告している検査の値の正確性を、そのトレーサビリティ体系を示して解説し、さらにその値を評価する基準範囲は、日本臨床検査標準協議会（JCCLS：2014年）が2014年に発表した共用基準範囲であることを説明しました。

しかし現今では、その標準化は発展途上であり、他施設で得られた検査の値は、どこの施設でも使えるものではなく、示された数値の単位（IU/L，U/L他）やその基準範囲が施設ごとに異なる事例を紹介しました。

ささやま医療センターでは、根拠のある正しい値を提供し、さらに（みんなが利用できる）共用基準範囲を用いて診断しているということを広報活動することは、地域医療の「標準化」を進めていく先導者的な施設でありたいとする私たちの希望の現れであります。



◆「褥瘡対策チームの活動」のご紹介◆

患者さんの年齢や原疾患の如何にかかわらず、寝たきり状態が長く続く場合や、一日の大半を例えば車いすに座り続けているなど同じ姿勢を長時間に渡りっていると、ご自身の体重によって臀部や背中や腰部、踵などの骨の突出した部分の皮膚と軟部組織が圧迫されて血行障害を来し、難治性の潰瘍ができてしまいます。これを褥瘡（じょくそう＝「床ずれ」）といいます。褥瘡は一旦できてしまうと生活の質を著しく低下させて入院期間も延びてしまい、ご家族の方も心配です。

当院では、医師、看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、医事課の多職種メンバーからなる褥瘡対策チームを結成して患者さんのベッドサイドで週1回の褥瘡回診を実施し、褥瘡の評価と科学的根拠に基づく褥瘡治療のアドバイスをこなうとともに、褥瘡の発生リスクの高い患者さんにつきましては発生予防のための方策を立てて、褥瘡の院内発生ゼロを目指して頑張っています。

褥瘡対策委員会 専任医師：外科診療科部長 石川 英明



◆市民ふれあい健康教室 開催予定◆

日時：平成27年5月20日（水） 午後1時30分～午後2時30分

場所：ささやま医療センター 正面玄関ホール

テーマ：第1部 骨密度測定（DXA）について ～次世代へかけるはし～

：第2部 マンモグラフィ検診について ～女性の笑顔を守るために～

講演者：診療放射線技師 野垣幸男

診療放射線技師 時本久代

次回発行予定 平成27年10月